

高知県公立学校事務研究会香長支部第2回研修会記録

開会（支部長代理あいさつ）

講話「学校現場におけるスクールソーシャルワーカーの役割」

（高知県立大学 社会福祉学部 准教授）

- 高知県の子どもの現状
 - ・自分にはよいところがあると感じているのは70%くらい。
 - ・目に見える問題として暴力行為・不登校（全国ワースト3・4位）があげられる。
- 発達障害について
 - ・発達障害とは注意欠陥多動性障害（ADHD）や自閉症スペクトラム障害（自閉症・アスペルガー症候群）、学習障害などの脳機能の障害であってその症状が通常低年齢において発現するものとして政令に定めるもの。特徴として他者の視点から考えることの難しさや行為に対しての自己統制が苦手であること。ある特定の学びが困難であったりする。しかし、困難があるということを理解するだけでなく、違いがあるということをお互いに認め尊重し合うことが大切である。
- スクールソーシャルワーカーについて
 - ・高知県の25市町村で45名のスクールソーシャルワーカーが活動している。
 - ・スクールソーシャルワーカーの役割
 - ①問題を抱える児童生徒が置かれた環境への働き掛け
 - ②関係機関等とのネットワークの構築、連携・調整
 - ③学校内におけるチーム体制の構築、支援
 - ④保護者、教職員に対する支援・相談・情報提供
 - ⑤教職員等への研修活動等
 - ◇なぜスクールソーシャルワーカーが必要とされているのか？

現在、小中学校ではいじめ、不登校などの問題や発達障害への対応が増加し、個別に支援が必要な子どもたちが増えている。子どもを取り巻く家庭や地域などの環境が複雑に多様化し、関係機関との連携が必要となっていることから学校現場の教職員だけでは対応が困難なためスクールソーシャルワーカーが必要になっている。
 - ・スクールソーシャルワーカーの3つの基本概念
 - 1. 生活概念・・・子どもや家族の生活をトータルに捉えること。
 - 2. 過程概念・・・支援過程を通じて子どもや家族の生活に関わること。
 - 3. 支援概念・・・子どもや家族を問題解決の主体者として考えること。
- ケースワークについて
 - ・個別化、統制された情緒的関与、非審判的態度、意図的な感情表出、受容、自己決定、秘密保持といった「バイステックの7つの原則」がある
 - ・ストレングス視点を持って、いいところをたくさん見つけ、その人を褒めたり、認めたり、また短所を長所にリフレーミングしながら支援を行っている。

防災シチュエーションシート（服務編）について

- ・各グループに分かれ、配布された資料を用いてグループワーク（資料参照）
グループワーク後にいくつかのグループの話合ったことを発表、全体で情報の共有
- ・今回のグループ等で意見が出たものは調査研究部でまとめ、今後の防災シチュエーションシートの作成に活かしていく。
- ・防災対策状況の報告（香南市→南国市→香美市→嶺北地域）

事務連絡・閉会